

令和4年度の学校教育目標等について

京都市立松原中学校

校是 —自律・友愛・創造—

自律：自ら学ぶ力（学ぶ楽しさを発見し、自己を変革し続けることができる力と、律する力（人との関わりを成長の糧とし、自己や他者にとってより良い判断ができる力）を鍛える。

友愛：責任ある行動をとり、学び合い、高め合う「仲間づくり」ができる生徒に育てる。

創造：自らの「夢の実現」に向けて、何事にもチャレンジする創造性豊かな生徒の育成を目指す。

R 4 年度学校教育目標 「自ら考え行動し、仲間と協働できる、 未来を切り拓く生徒の育成」

目指す生徒像

- 自分で判断ができ、行動に移せる生徒
- 自分の考えを相手に伝えることができる生徒

○相手の考えをしっかり聞き、折り合いをつけることができる生徒

○他の人を大切にできる生徒

○目標を達成するために、仲間と協働できる生徒

○夢や希望を持ち、実現に向けて努力できる生徒

令和4年度 学校経営方針

- 1** 生徒一人ひとりが持てる力を發揮し、各自の自己評価を高めるために創意工夫ある教育活動を実践する。（輝く松原づくり）
- 2** すべての生徒の学ぶ権利を実現するとともに、道徳教育とキャリア教育が充実した学校をつくる。
- 3** 生徒集団を育て、人権文化が定着した学校づくりを推進する。
- 4** 他校種間の連携や地域との交流を重視し、地域や保護者に開かれた学校とし、その中で生徒主体の教育活動を実践する学校を目指す。
- 5** 学校教育目標を理解し、共有し、共にチーム（組織）の一員としての教職員集団でその達成を目指す。

－ 重 点 方 針 －

1. 学習指導…【生徒への学びを保障するために】

- (1) 生徒が探究心を向上させる学びの授業を実践する。そのための授業力向上に取り組む。
- (2) 「特別の教科 道徳」も含め、すべての教科に言語活動と仲間との学びを意識した授業を実施する。
- (3) 体験的な学習活動を充実させる。
- (4) 地域と連携した伝統文化教育を充実させる。
- (5) 学習確認プログラム等において、得点力の向上を目指す。
- (6) 信頼される総括評価（学期や単元の最後に行う評価）と形成的評価（学期や単元の途中で出される評価）を充実させる。
- (7) 授業ごとに本時の目標を提示し、生徒自身にその達成を評価させる。

2. 生徒指導…【心の通った指導とよりよい校風づくりをめざす】

★ 生徒に自己決定の場、自己存在感、共感的人間関係を育成させる。

- (1) 積極的に生徒に関わり、生徒理解を深め、指導していく。
- (2) ていねいな対応を行い、生徒から信頼を得ていく。（手本となる大人）
- (3) 居心地のよい学級をめざし、より良い学年集団を創る。
- (4) 生徒会活動や部活動の充実を通して、リーダー育成と健全な組織を作る。
- (5) 教育相談の充実と、スクールカウンセラー等との連携も考え、生徒の不安や悩みを解消させる。
- (6) 「生徒指導ハンドブック」の活用と生徒指導等に関する情報の共有化を徹底する。【報告・連絡・相談を徹底】

3. 人権教育…【友愛・協働を実現できる能力を育む】

- (1) 人権文化の定着を図り、参加体験型人権教育を推進する。
- (2) 特別支援教育やインクルーシブ教育（障害のある人もない人も共に学ぶこと）に対する理解を深め、指導力を向上させる。
- (3) 性教育や情報モラルについてより良い指導の工夫に努める。
- (4) 総合・道徳・特活を充実させ、人格教育を推進していく。

4. 地域連携等…【さらなる学校力の向上のために】

- (1) 学校運営協議会の活性化を図るとともに、小中一貫教育をはじめ、他校種間との連携を発展させる。
- (2) 伝統文化教育等において、地域の人材活用を推進する。
- (3) 地域でのボランティア活動を進め、生徒の自己有用感を高めていく。
- (4) 学校評価を利用し、学校力の向上を目指す。
- (5) 地域を取り込み、「チーム学校」という意識で、生徒の育成に当たる。

5. 教職員研修…

【求められる教師（教育に対する強い情熱・豊かな人間性・高度な専門的な知識

をもつ）となる】

- (1) 月1回の校内研修を実施し、充実したものにする。
- (2) 小中で連携した研修を充実させる。
- (3) 若手・中堅教員の研修を活性化させる。
- (4) 校外研修会へ積極的に参加していく。